

# 東京都歴史教育者協議会第46回研究集会

## 激動の時代における社会科の授業づくり

■ 日 時：2013年2月24日（日）10:30～16:30（10:00開場）

■ 会 場：筑波大学附属駒場中・高等学校

■ 資料代：一般 800円 会員・学生 500円 学生会員 無料

10:30～ 開会 記念講演

### 保立 道久 氏（東京大学教授（史料編纂所））

#### 「歴史における自然と地震火山神話

—神話をどう教えるか。歴史教育の側に聞きたいこと—

3, 11大地震と酷似した構造をもつ九世紀の地震について『歴史のなかの大地動乱』（岩波新書、2012年）で書いたことを説明し、同時に歴史意識を見つめ直す上で必須の地震火山神話についてお話ししたいと思います。これは歴史の研究・教育の全体で本格的に議論すべきことと考えています。

保立道久氏ブログ「保立道久の研究雑記」 <http://hotatelog.cocolog-nifty.com/>

12:30～ 休憩

13:30～ 分科会

#### ①震災・原発

- ・佐々木孝夫さん（中）「30年間ずっと原発を拒否し続ける『祝島の人々』を子どもとどう学ぶか」
- ・野口 裕行さん（高）「生徒たちは福島原発事故と沖縄の現実から何を学んだか」  
—高橋哲哉『犠牲のシステム』の教材化のひとつの試み—

#### ②授業づくり

- ・奥田みやまさん（小）「スーパー教材 おかいこ様と学ぶ子ども達」
- ・河合美喜夫さん（高）最後の授業「原爆はなぜ投下されたか」  
～最近の世界史論と世界史教育論に依って～

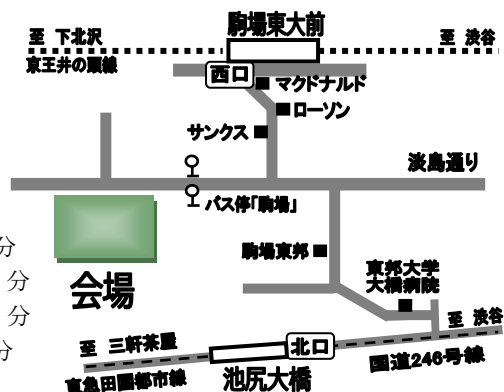
#### ③歴史学と歴史教育

- ・米山 宏史さん（高）「発表を通じて学び合う戦後世界現代史の授業」
- ・小川 輝光さん（高）「学校史で学ぶ関東大震災」

16:00～ 全体会

東京の教育をめぐる動き

16:30 終了



#### ■ アクセス

- ・京王井の頭線 駒場東大前 徒歩7分
- ・東急田園都市線 池尻大橋 徒歩10分
- ・東急バス 渋51・渋52 駒場下車 徒歩1分
- ・小田急バス 渋54 駒場下車 徒歩1分

#### ■■ 東京歴教協とは？ ■■

東京の教員、大学生・院生や、歴史に関心のある市民の方々などを中心とした研究会です。

年1回の研究集会は、講演と分科会を通じ、学問と教育、歴史認識、魅力的な授業づくりなどについて学び合う場となっています。

どうぞご参加ください。

#### 東京都歴史教育者協議会

連絡先：事務局（富永）Tel & Fax 042-488-3619

E-mail [tokyo\\_rekkyo@yahoo.co.jp](mailto:tokyo_rekkyo@yahoo.co.jp)

ホームページ <http://tokyo-rekkyo.jimdo.com/>



## ■■レポーターから一言■■

### 「30年間ずっと原発を拒否し続ける『祝島の人々』を子どもとどう学ぶか」

佐々木孝夫

「ミツバチの羽音と地球の回転」という映画をご存じの方もいると思います。原発を建設しようとしている中国電力を相手に、のぼりを立て鉢巻をして体を張って抗議するおばちゃんたちが印象的です。毎週月曜日におこなってきた島をねり歩くデモ行進は1150回を超えました。人々がくらす島の4キロ先の対岸の浜に1982年以来計画されてきた原発建設に対して、30年にわたって反対し続けている山口県上関町祝島の人々です。万葉集にもその名を記し、海上交通の要衝の地で古くから海の領主として活躍してきた歴史を持つ「祝(ほうり)の島」の人々。平均年齢75歳、人口500人足らずの過疎の島の人々が大切にしてきたものは何か。現地を訪問し旅館の女将さんから聞いた話、現地で撮った写真、祝島の人々が発信しているブログ等をもとに、「人々はどんな暮らしをしているのか」「どのようにして原発をつくらせないできたのか」について中学2年生と学んだ1時間の授業を報告します。

### ■「生徒たちは福島原発事故と沖縄の現実から何を学んだか」

—高橋哲哉『犠牲のシステム』の教材化のひとつの試み— 野口 裕行

2012年の6月に、高校二年生の「現代社会」の授業で福島の原発事故と沖縄の基地問題について取り上げてみました。21世紀に生きる生徒たちに、原発問題、米軍基地問題について当事者として考えてもらいたいと考えたからです。いろいろな本を読み、新聞やテレビの番組を見ながらの言わば走りながらの試行錯誤の授業でしたが、それに対する生徒たちの感想や考えと今後の課題について報告したいと思います。

### ■「スーパー教材 おかいこ様と学ぶ子ども達」

奥田みやま

昔から養蚕と絹織物の町として栄えてきた歴史を持つ八王子。市内の小学校の校章にも桑の葉がデザインされているものが少なくありません。その中でも多摩織りの産地として、現在でも養蚕や織物工場を営んでいる方が学区内にいらっしゃるといふ地域性を生かし、本校の子ども達は毎年1000頭に上る蚕を学年で飼育しながら、様々なことを学んでいきます。蚕の飼育から糸とり、さらにはさなぎの試食まで。社会科だけにとどまらない深い学びを絹糸と共に紡ぎ出してくれる、スーパー教材「おかいこ様」のおもしろさを感じてみてください。

### ■最後の授業「原爆はなぜ投下されたかーヒロシマからフクシマへー」ー最近の世界史論・世界史教育論に込めてー

河合美喜夫

昨年の3月2日、高校2年生に「最後の授業」を行いました。授業とは教室の中だけで完結するものではなく、学校生活全体の中で生徒が考え、行動することと密接に結びついているとの思いを新たにしました。3.11から何を私たちは学び、授業や学校生活に活かしていくのか、そして最近の世界史論や世界史教育論はそういう課題に込めているのかという問題についても考えたいと思います。9月8日に世界部会で報告し討議した内容を踏まえてレポートします。

### ■「発表を通じて学び合う戦後世界現代史の授業」

米山 宏史

間もなく戦後70年が近づく現在、歴史教育には戦後世界現代史の知識を含む主体的な歴史認識の形成と、自分の力で歴史や社会事象を分析・解釈し、意思決定と価値判断を行う力の習得が問われている。勤務校では高校3年生を対象に世界史の現代史学習に取り組み、2時間連続授業の前半は教員の講義と映像教材の視聴による1回完結型のテーマ学習を、後半はレジュメを用いた生徒の発表学習を行っている。一人年間2回の現代史の発表学習を通じて得られた学びの成果と今後の課題について報告したい。

### ■「学校史で学ぶ関東大震災の授業」

小川 輝光

高校3年選択日本史での授業実践です。勤務校が関東大震災当時に発行していた『学校時報』というメディアに記録された、教員や当時の生徒達の震災体験記を東日本大震災を経験した受講生徒とともに読み込みました。食糧不足と治安悪化、「鮮人騒動」の発生、自警団の設立、避難所となった学校では震災後の横浜の状況がリアルに記録されています。1930年代の時代の雰囲気も生活感覚として立ち現れてきます。現代史ならではの史料を活用して、女学生の視点から関東大震災の社会史、日本社会の転換期を学ぶこととなりました。